

平成 30 年度 第 2 回 瀬戸内市地域公共交通会議 会議録要旨

開催日時：平成 30 年 11 月 26 日（月）14 時 00 分～15 時 21 分

開催場所：瀬戸内市役所 2 階 大会議室

出席委員：高原会長（瀬戸内市副市長）

大東副会長（岡山商科大学経営学部）

原 委員（両備ホールディングス㈱）

佐藤委員（東備バス㈱）

尾崎委員【代理：尾崎氏】（ツルヤタクシー）

坂本委員【代理：末藤氏】（㈱ネイチャーワールド自動車）

元浜委員（瀬戸内市商工会）

北谷委員（瀬戸内市 PTA 連合会）

角房委員（生活交通網をつくる会）

久保委員【代理：内田氏】（西日本旅客鉄道㈱岡山支社）

三枝委員（一般社団法人瀬戸内市緑の村公社）

藤井委員（中国運輸局岡山運輸支局）

福寄委員（岡山県県民生活部県民生活交通課）

杉田委員（備前市市民生活部市民協働課）

竹井委員（瀬戸内警察署）

中務委員（備前県民局建設部管理課）

出席委員 16 名

委任状提出委員 5 名

事務局：総合政策部 三浦（部長）

企画振興課 岡崎（課長）、青砥（課長補佐）、吉田（主事）

1 開会

2 会長あいさつ

※本年第 2 回目となる。前回の 6 月開催以降の公共交通施策の進捗状況等について事務局から説明があるので、将来にわたっての地域公共交通の在り方も含めて、忌憚のないご意見をいただきたい。

※市営バスについては、10月からダイヤ改正や新たな停留所の設置等を実施した。その効果については後ほど説明するが、新たな課題も発生している。3路線とも、4月以降の利用者数は概ね横ばいで推移しているが、西脇一邑久駅線の利用者が少ないことが大きな課題となりつつある。

※このような課題も含めた公共交通網の整備について、ご審議をいただきたいと考えている。

### 3 議事

#### (1) 既存の地域内交通について

～事務局から資料1（p1～6）【市営バスの利用状況】について説明～

会 長           ご意見、質問があればご発言をいただきたい。

市営バスについて、本年10月1日の改正で新規に設置した停留所の乗降者数の報告もあったが、まだ1か月しか経過していないため、もうしばらく様子を見る必要があるか。

事務局           新設や移設を実施した停留所については、1か月分のデータしかないため、現時点では判断が困難である。地域の要望に基づき新設や移設を実施した停留所がほとんどであるが、積極的に使っていただくための呼びかけも必要だと感じている。

会 長           市営バスの運行開始から1年が経過した。事務局から現状を報告したが、運行に関する課題は概ね把握できつつある。中でも、市営バスが持続可能な公共交通であるためには、利用者の確保が課題である。将来的には、費用対効果についての議論が必要になる時期も来る。この市営バス事業は、公共交通不便地域の解消を目的として始まっている。従って、利用者が少ないから路線廃止という話ではなく、どのようにして利用者を増やすか、という観点からご意見をいただきたい。

老人クラブへの周知や利用促進に向けたアプローチは行っているか。

事務局           老人クラブに限定した具体的なアプローチは行っていない。

会 長           主な利用者は高齢者であり、老人クラブと連携するべきと考えている。

事務局           利用者増加につながる取り組みや啓発について、老人クラブへ積極的に協力を要請する。

会 長           利用者は高齢者をはじめとしたいわゆる交通弱者の方がメインである。買い物などの日常生活の中で市営バス利用を定着させていただきたい。その

ためには、まずは利用していただくという第一歩となる動機をどのように提供できるかが課題である。

～事務局から資料1（p7～9）【タクシー活用制度の利用状況】について説明～

- 会 長           ご意見や質問があれば発言をお願いします。  
                  タクシー活用事業については、玉津・裳掛地区で実証導入して1年が経過した。今後はどのような展開を想定しているか。
- 事務局           本日の協議事項で、市営バス事業の新路線案を上げている。既存の市営バス3路線や民間の公共交通機関と合わせて市内の公共交通網の整備を進めていくが、市営バスは定時定路線であることから、全ての公共交通不便地域をカバーすることはできない。タクシー活用制度は、地域内交通導入の最終手段と位置付けており、将来的に市全体の公共交通網整備が完了した段階で、なお公共交通不便地域として残る地域をカバーする地域内交通として導入することを想定している。
- 会 長           路線を導入できる公共交通不便地域へは市営バスの新路線導入を検討し、この方法ではカバーできない地域はタクシー活用制度の導入を検討するという認識でよいか。
- 事務局           その通りである。
- 委 員           今後、市営バスの利用者が増加しない地域は、タクシー活用制度への転換もあり得るか。
- 事務局           タクシー活用制度を導入する地域は、市営バス利用者の数で判断するというのではなく、地理的な要因や集落の分布状況により、市営バスなどの地域内交通が効率的に運行できない地域になる。
- 委 員           現在は玉津・裳掛地区限定で実証的に導入しているが、将来的には、市営バスを導入してもなお停留所から距離があり公共交通不便地域に残る地域へ導入するという意味でよいか。
- 事務局           そうである。
- 委 員           以前、生活交通網の充実について、どのような改善策があるか話し合う中で、タクシーチケットを活用する方法が最も平等でよいとの意見もあった。今後の導入方針については、事務局の説明の方向性でよいと思う。  
                  本年4月から10月までの間で、本年度に交付されたタクシー券の内、既に利用された枚数は約25パーセントとの報告があった。市としては利用率が

低いと認識していると思うが、原因はどのようなことが考えられるか。

事務局 あくまでも推察だが、申請してタクシー利用券の交付を受けたものの、実際に自力でタクシーを利用することが困難だった、という方もおられるかもしれない。また、年度後半の年末年始等に出かける機会が増えることを想定して、今のところ使用を控えている方がいる可能性も考えられる。

委員 現時点での利用枚数が少ないことについて、タクシー利用券の利用者から意見は届いていないか。

事務局 現時点での利用率が想定より低い要因に繋がるような意見は届いていない。  
会長 事務局から報告のあった移動状況データを見ると、利用者はタクシー利用券を適正に利用していることが分かる。つまり、交付されたからといってむやみに使用するわけではなく、むしろ本当に必要な際に使用していると考えられる。一方で、制度としては本年度中には 50 パーセント以上の利用があつてほしいとの思いもある。制度に関する周知は十分にできていると考えている。利用率については、季節的な要因も考えられることから、今後の推移を注視していく。

## (2) 市営バス事業（新路線案）について

～事務局から資料 2 について説明～

会長 市営バス新路線案のイメージをお示ししている。本日の会議では、具体的な路線案は提示していないことから、イメージの共有までとなる。次回、2月に予定している公共交通会議で新規 2 路線の具体的な案が示されるとのことなので、そこから具体的な運行計画についてご協議いただくことになる。

新路線が実現すると、本市の公共交通不便地域人口が最高で 7 パーセントにまで改善されるとの試算もあった。

公共交通会議の総意として、(仮称)長船北線、(仮称)今城線(北回り・南回り)について、今後、地域住民の意見聴取を始め、来年の 2 月から具体的な協議を行うとの方針でよいか。

(意見なし)

それでは、新規 2 路線について、具体的な検討に入ることにします。

(3) 地域公共交通網形成計画推進事業について

～事務局から資料3について説明～

会 長           ご意見やご質問はいかがか。

委 員           「中学校卒業予定者に対するバス通学に関する情報提供」について、中学校卒業直前の3年生だけではなく、中学1、2年生へも情報提供してはどうか。早い段階で、様々な高校へ通学するための公共交通に関する情報を知っていただくことで、進路を選択する上での要素にもなり得る。子供の高校進学に合わせて転出する世帯もあるが、一度転出した世帯は戻ってこない。この地域で住み続けていただくためにも有効だと思われるので検討をお願いします。

事務局          委員のご発言のとおり、中学校1、2年においても将来の進路選択の情報として役立てていただける可能性が大きい。積極的に検討する。

会 長           地域内交通導入の項目で、前島の話があった。前島フェリーを運航する緑の村公社として委員のご意見を聞きたい。

委 員           前島にも様々な人が住んでいる。90歳代でスクーターに乗るような元気な高齢者もいるが、一方で島内の移動手段がないことから、島から出られない方もたくさんいる。我々は福祉施策での弁当配布なども担っており、前島の高齢者の話を聞く機会が多いが、高齢になると島に住みたくても住めない、という意見を耳にする。ぜひ行政の力も借りて、島に住みたい方が住み続けられるような地域になるように願っている。

会 長           そのとおりである。前島には65世帯、139人の方がお住まいであるが高齢化が進んでいる。多くの島民方にとって住みやすく、持続的に住んでいける地域づくりが必要だと思う。人口流出を抑制する大きな要因が移動手段確保であると考えている。

事務局は12月頃に前島の高齢者と話し合いを持つのか。

事務局          先日、行政委員を通じて依頼した。移動に関して困っていることや要望を聴かせていただく予定である。

会 長           前島への地域内交通導入スケジュールとして網形成計画で示されている2020年度までに、多くの島民の意見を聴き、それを反映できるような施策を準備したいと考えている。

ところで、スマートフォンで市のHPを見ると、公共交通マップが大変見にくい。スマートフォンで公共交通マップを確認する高齢者がどれく

らいの人数が不明だが、もう少し見やすくなるよう検討していただきたい。また、本日も配付している「瀬戸内市営バスで出かけましょう」の冊子はA4サイズで大きく、ポケットへ入らず使い勝手が悪い。とはいえ、縮小サイズにすると文字が小さくなり、高齢者には見にくいものになってしまう。こちらは何らかの対策を検討してほしい。

雑談として聞いていただければよい話だが、市営バスに乗車すると、小さいサイズの時刻表を見るための虫眼鏡がもらえるとか、市営バスを利用してお店へ行くとポイントがつき、ポイントを集めることで景品がもらえるといった利用促進につながる工夫があってもよいと思う。

市議会からもご意見をいただいているが、市営バスを利用してもらうための動機付けが重要である。「買い物や通院が便利になる」という直接的なメリットを伝えることは当然だが、啓発グッズやポイント制度を活用した利用促進も動機付けになる可能性はあると思う。

協議事項については以上だが、公共交通全般に関してご意見があればご発言ください。

委員 小中学生は市営バスを利用する機会がない。市営バスの運行は平日の日のみなので、学校の時間と重なる。高校生にしても、16時頃に邑久駅を出発する市営バスの最終便で帰れる生徒はほとんどいない。子供たちから、土曜日、日曜日、祝日にも市営バスが運行していれば、親が不在でも駅に行ける、との意見を聴いている。

事務局 今のところ、土曜日、日曜日、祝日の運行は検討事項ではないが、夏休み等の長期休暇中は、図書館等へ行く子供の利用もあるようなので、このような利用方法は積極的に周知していきたい。一方で、土曜日、日曜日、祝日の運行となると、費用面や乗務員の確保が課題となる。検討させていただく。

会長 貴重なご意見だと思う。利用者が増加すれば、土曜日、日曜日、祝日も運行を要望する声も更に高まると思われる。

公共交通とは別に考える必要があるが、市内の観光地を周遊できるバスも必要となる。例えば、土曜日、日曜日、祝日のみの運行で、長船駅と長船刀剣博物館を結ぶ路線などを将来的には考える必要がある。こういった周遊バスを、一般市民の方にも活用していただくという方法もある。

- 委員 これから具体的な協議に入る前島の地域内交通は、前島の島内で完結するもので、島内と前島側のフェリー乗り場を結ぶイメージでよいか。
- 事務局 その通りである。島内で前島側のフェリー乗り場までの移動手段を確保することを想定している。公共交通として位置づけている前島フェリーの乗り場まで来ることができれば、本土側のフェリー乗り場からは東備バスか市営バスへ乗り継いでいただくことを想定している。
- 会長 このような話も、12月に前島で実施する住民意見交換会で出ると思うので、しっかりと住民意見を聴取してほしい。
- 委員 牛窓町鹿忍地区の方が瀬戸内市民病院への通院で困っている。東備バスの南回りと北回りを紺浦で乗り継ぐことになる。行きの3便は短い待ち時間で乗り換えられる便があるが、診察を終えて昼前に市民病院を出るバスに乗車すると、紺浦での乗り継ぎに50分前後も待つことになる。中には、乗継時間が長いため、紺浦から鹿忍地区まで歩いて帰る人もいる。長距離を歩く途中で体調が悪くなる方もあり、私も実際にとても疲れてゆっくり歩いている方を送ったことがある。可能であれば乗継しやすいダイヤになるよう改善をお願いしたい。
- 会長 より具体的な事例とご意見をいただいた。事務局は東備バスと協議し、市営バス西脇線を今後どのようにするかと合わせて検討してほしい。協議事項は以上である。

#### 4 その他

- 事務局 事務局から1件報告があります。
- 平成30年9月28日付け文書で委員の皆さんへ類審議を依頼した「生活交通改善事業計画」については、特に意見はなくご承認いただいたことから、お示しした案の通り計画を策定した。
- 次回の公共交通会議は2月下旬頃を予定している。日程等は後日連絡する。
- 閉会のご挨拶を大東副会長にお願いする。

## 5 閉会

副会長

公共交通不便地域の解消という目標に向かい着実に進んでいると感じている。次は、この路線を維持するために短期的、中長期的な目標を設定することが賢明だと思っている。目標を設定することで、例えば利便性向上やダイヤ改正といった具体的な協議を進めていくことが可能になる。本日示されたデータも詳細なものであり、目標に対しての現状を認識しながら話を進めることができた。

本日はありがとうございました。